

ルーダスⅡコヴェントリー・サイクル劇

XXV

橋 本 侃

「主のトマスへの現出」

(1)

クレオパ わたしたち二人は大きな城郭の町エマオまで、

エルサレムから主と一緒にでした。

ついでですが、六十ハロン（約十二キロ）です、

一緒に歩いた距離は。

善意からわたしたちとお話になり、

キリストは生きている、と語られました。

そして、聖書に照らし、それが確かなことであることを証しされました。

以上の事は、申しあげたとおり事実であると信じてください。

写本二〇七頁

275

280

(2)

ルカ そのとおりなのです。それから、長い話を終わりになさると、わたしたちから離れて、ご自分の道を行かれようとなさいました。

そこで、わたしたちは力ずくでお引き止めしました。

そして、食べていたかどうかと、パンをお渡ししました。

すると、そのパンをちょうど真ん中で二つに裂かれました――

鋭いナイフで切ったら、そのような形になるはずですよ。

その瞬間に、わたしたちは事実気がついたのです――

キリストは生きている、死んではない、と。

(3)

ペテロ さてもさても、皆さん、これはとても不思議な話だ――

お二方は驚くような話を聞かせてくれた。

パンをちょうど真ん中で裂かれた時に、

その方が師であり主であることが判ったのですね？

ユダヤ人が殺したキリストが生きておられる、とおっしゃるのですね？

確かに嬉しい報せです。

そんなにも長いこと一緒にいたのだから、

師が甦ったという事実を充分に証明しています。

(4)

さあ、兄弟のトマス、わたしたちは喜んでいいのだ、
こんなにいい報せを受けたのだから。

主である神の慈しみがわたしたちの上にあまねく行き渡ったのだ。
付き従う者たちを救おうと、主は立ち上がられたのだ。

トマス 黙れ、ペテロ——みんな、奴はたわごとを言い始めたぞ。

言葉に抑えが効かず、正気の沙汰でない。

死んで墓に横たわっていた死人がどのようにして

生きた血肉を得て立ち上がり、生きている、と言うのか！

(5)

ペテロ いいや、トマス、師が生きておられることを疑うな。

マグダラと二人の姉妹が言ったことも思い出せ。

それにまた、それが事実であることは、クレオパとルカとが

エルサレムからエマオまで師と一緒に行ったことで明らかだ。

トマス それが事実とは心から信じられない。

師は十字架上で死んで、穴に入れられ、冷たくなっていた。

墓は四人の騎士に守られ、封印もされた。

びったり閉じ込められていたのに、それがどのようにして生き返るのだ？

(6)

ペテロ キリストが立ち上がった、とマグダラのマリアがわたしたちに告げた時、

わたしは墓へ駆け付けた。ヨハネもわたしと一緒にだった。

確かに、師は牢獄の中に横たわっておられなかった。

墓から出たことが判って、師が生きておられることを知った。

それゆえ、愛しい兄弟のトマス、忠告しておく――

キリストは死んでいないことを、しかと信じなさい。

師が生きていることを信仰にかけて信じなさい――

三位一体の力によって死から起き上がったのだ。

(7)

トマス 俺にはこの驚くべき不思議な出来事がどうしても信じられない――

この目で大きな傷の一つ一つを見て、

俺の指を釘の刺さった場所に入れるまでは。

そんな事が地上の人間の身に起こるなんて絶対に信じられない、

この手が槍の刺さった穴を――

師の心臓を裂き、血をほとばしりさせた槍の穴を探し当てるまでは。

今が今、生きていて、無傷であるなどと、どうしても信じられない、

十字架上で死んだのが真実であると、この俺は知っている！

(8)

ペテロ キリストがあなたの慰めになり、悪い考えを変えてくれますように！ 二〇八

信仰のために——あなたが魂を失ったのでないのなら、

神がぐらつかない信仰にあなたを導いてくれますように、

師はわたしたちのために一人の従順な乙女から生まれたのだという信仰のために！

キリスト あなたたちに平和を！ さあ、どれだけずたずたに裂かれたかを見なさい。

愛しい兄弟のトマス、わたしの両手を良く見なさい。

トマス 夜も朝もいつでも、わたしの神、わたしの主！

主よ、わたしの大きな罪を憐れみください！

(9)

キリスト 良く見よ、トマス、わたしの広い傷を、

すべての人間のために受けた傷を。

その手をそっくりそのままわたしの右の脇腹に差し込み、

心臓の血に浸した手をこね回しなさい。

そうすれば、とても信頼にたる友であったことが自分にも判るはずだ。
しっかりした信仰を持って、わたしを信じなさい。

心の中でわたしのことを疑わないで、

十字架上で死んだわたしが生きていることを信じなさい。

(10)

トマス わたしの主を、わたしの神を、この目ではっきりと見ています、
十字架上で吊るされて死んだあなたが生きている姿を。

わたし以上に信仰深い人間がいるはずはありません。

なぜなら、この手をあなたの貴重な血の中で洗ったのですから。

キリスト わたしを目にしたのだから、あなたの信仰は良いものだが、
目で見なくても信じる人たちは祝福されるだろう！

そのように信じられる人は心が従順だから、

わたしの喜悦そのものの、とても輝かしい天へ迎えよう。

(11)

トマス 考える力がすっかりなくなり、喜びで茫然としております。

俺の恐ろしい疑いに大きな葬式を出しましょう。

石の下からキリストが出て来たことを、悲しいことに疑っていた！

ご自身の力では、どうしても外へ出られないと思っていた。

悲しいのは、俺は何かに突き動かされてそんなふうと考えていたのだ。

疑ってばかりいて信じられなかったことを考えると胸が苦しくなる。

はっきり分かっているのは、神がするようにされた、という事実だ――

ナゼナラ、死ンデ葬ラレタノニ、甦エッタカラダ。

(12)

死んで墓の中で冷たくなったキリストが

ご自分の力によって立ち上がり、生きている。

俺はこの手を愛しい心臓の血で洗った。

心臓には槍の切っ先が痛ましくも突き通されていた。

正しくないものをすべて捨て去り、堅信に至った。

疑うことで俺はひどく苦しんだ。

今こそ、目を大きく開いて、見た――

ナゼナラ、死ンデ葬ラレタノニ、甦エッタカラダ。

(13)

してくれた話を俺は一つも信じなかった、

この手がキリストの心臓の血に中をもがいて進むまでは。

疑っていたおかげでキリストが力強く生きていることが明らかになった。

そして、これはわれらを喜ばせる信仰上の大問題だ。

これを目にした人たちよ、あなた方の信仰が色あせることは決してないだろう。

疑いは俺を苦しめたが、あなた方の心を浮き立たせることだろう。

このような奇跡を起こしたキリストをよくよく信じなさい――

ナゼナラ、死ンデ葬ラレタノニ、甦エッタカラダ。

(14)

ペテロが説教しても俺は回心できなかった、

槍が突き刺した傷に手を触れるまで。

十字架上で死んだキリストが生きていることを少しも信じなかった、

キリストの血がわたしの袖に流れ落ちるまでは。

このようにして、わたしの大きな疑いに倣って、

わたしたちは信仰の証しができる。

二〇九

この血塗られた手を見て、わたしを苦しめた信仰に入ってください！

このように、神の偉大さを目にする事で、信仰から離れないようにしてください――

ナゼナラ、死ンデ葬ラレタノニ、甦エッタカラダ。

(15)

マグダラのマリアはキリストの甦えりを直ぐに信じたのに、

わたしの方は長いこと疑っていた。そうだからといって、

わたしをとがめないでください。

なぜなら、わたしの大きな疑いに倣って、わたしたちは信仰の証しができるのです、

キリストが負った恥じについて語っているすべての異端者たちとは違って。

ユダヤ人が殺したイエス＝キリストをよくよく信じなさい。

キリストはわたしたちの信仰を常に苦しませる悪魔から戦い取ってください、

あなたたちを天へ引き連れ、あなたたちを皆一緒に救われる――

死ンデ葬ラレタノニ、再ビ立チ上ガッタ方ガ。〔一同が「アーメン」と唱和する。〕

〔ココデ、「主ノとますヘノ現出」が終わり、「主ノ昇天」が始マル。まりあと十一人ノ弟

子タチト白装束の二人ノ天使ガ座ル。〕

写本二一〇頁(W帖)

390

第三十九番山車演目 主の昇天

(1)

イエス アナタガタニ平和ヲ、平和が皆さんと共に、

385

愛と安らぎと思いやりがあるように！

七つすべての徳のうちでも愛だけは途切れさせないようにしなさい――
すべての徳の内が一番のものだからだ。

あなたがたに非があると証しすることができる、

――あなたがたに向かっては分かり易い言葉を遣うが――

あなたがたは信仰を持つには心が固すぎるということだ、

だから、死から再び立ち上がってわたしが生きていることを信じない。

あなた方が信じていないにもかかわらず、知ってのとおり、

八回もあなたがたに姿を現し、

それぞれの時に真実を言った。

そして、これが九回目で、

もうこれ以上は姿を現わすことはない。

ところで、今ここに食べるものがあるかな？

あるなら直ぐに出しなさい――

食べるつもりだ、

あなたがたと一緒に。それが済んだら、行く。

(2)

わたしの弟子たちよ、わたしの言うことをよく聞き、

わたしの言葉に注意を向けなさい。

よいか、エルサレムから離れずにいて、

わたしの父との約束を従順に守りなさい――

その内容については、これまでにはずうっと、わたしの口をとおして聞いてきている、

人間の体を持っていた間は、あなたがたと一緒に留まっていたのだから。

なぜ約束を守るか――それは、ヨハネが人間を救おうとして、

水でのみの洗礼をわたしに授けたからだ。

しかし、わたしはあなたがたに約束しておく――

数日のうちに、

あなたがたは聖霊によって洗礼を受けるだろう。

それゆえ、立ち上がって、わたしの後に付いて来なさい、

オリーブ山まで。

(3)

大ヤコブ おお、主よ、わたしたちにも言わせてください――

主よ、お望みですか、これ以上ぐずぐずせずに、

今ここにイスラエル王国を建て直し、

左二〇

30

25

20

永遠につづく喜びをわたしたちにお与えになりますか？

イエス 弟子たちよ、その時と年月はあなたがたには分からない、いつ、わたしの父がご自身の力を注がれるかは。

しかし、短期間のうちに、

聖霊が与える明らかな力をあなたがたは得ることになるだろう。

その力によって、あなたたちはなるようになる――

エルサレムとユダヤにおいて、

加えて、サマリアにおいても、

それに、世界の果てまでも、

わたしを証しする唯一の者となる。

(4)

愛しなさい。怒らず、悪を為さず、

人に優しい声を掛け、施しをして暮しなさい、

陽気に、美しい調べで、天使の唄を歌いなさい。

今ここで、あなたがたの元から真っ直ぐに天に向かおう。

〔ココデ、いえすが昇天シ、皆ノ視界カラ外レルト、空ニ天使ノ歌ガ聞コエル。〕

(5)

天使 元の住みかであるエルサレムへ戻りなさい、

キリストはそうにお望みだ――

その地で、お約束を従順に待ちなさい。

疑いもなく、イエスはこうに言われた――

「自分はあなたがたから取り上げられる」と。

見ているうちに、雲の中を

上がって行く、再臨の時に降りて来るのと同じように。

これはすべての人間について確かなことだが、

キリストは審判を必ずや下される。

(6)

おお、あなたがた兄弟たちよ、わたしの言うことに耳を澄まし、

わたしが言うことを充分注意して聞きなさい。

聖書に記述されていることで成就されなくてはならないのは、

易しい言葉で言われたことだが、ダビデのこと、

追っ手を導いたユダのこと、

キリストを残酷にも殺した者たちのことだ。

つまり、キリストが死から再び起き上がり、

丸々四十日の間、地上に留まり、
すべてことが終わった後で、
われらが見ている前で、

輝く空の中に、

昇って行かれた、

天の喜悦に向かつて。

(7)

弟子 言われているのは、ユダがわれらと一緒にいて、

使徒のうちに数えられ、同等の榮譽ある地位にあったが、
われらの主イエスを裏切った時、

一本の木の上で自ら首を吊った、ということだ。

ユダの代わりに、他の者が選ばれなくてはならなかった、
弟子の数を元の数に戻すために。

その一人はわれらがよく知っている者で、

ずっと前からいつもここにいて仲良くしていて、

将来、証人となる者だ。

はっきりと証しする人だ、

身分の上下にかかわりなくすべての人に向かつて。

キリストが甦ったことを断固として表明する人でなくてはならない。

〔ココデ、よせふトましあすノ二人ガ正式ニ指名サレル。〕

(8)

おお、わたしたちを支配しておられる主よ、どちらの者が

事のコを奥の奥まで知っているのでしょうか？

できるかぎりの謙遜の心で、

気持ちをいっぱい込めて、あなたにお祈りいたします――

あなたの憐れみによって、どうか選んでくださるように、

今回の場合は、どちらかを代わりの者としてお示してください、

実際には、どちらかを選びになりたいのかを、

ユダが置かれていた地位を占めるのは？

〔ココデ、籤ガ引カレ、ましあすニ当タル。〕

さてもさても、主よ、ありがとうございます。

そして、あなたの聖なるみ旨を

成就させるために、

理になつて、

左二一

われら一同は同意しました。

「ここで、「マシアスの選出」が終わり、「聖霊降臨日」へ続く。」

第四十番山車演目 聖霊降臨日

〔聖霊降臨日ノコト、聖霊ハ膝ヲ突ク使徒タチノ上ニ降リル。〕

(1)

ペテロ、アンデレ、大ヤコブ 名誉と、礼拝と、崇敬、

ヨハネ、フィリポ、小ヤコブ 至福と、恵みと、善良さ、

トマス、バルトロマイ、シモン 尊厳と、徳と、卓越、

マタイ、ユダ、マシアス 美と、祝福と、聡明さ！

ペテロ これらの高き価値をあの主へ！

アンデレ これらは主から命じられてわたしたちがなしたこと。

大ヤコブ そして、これらはとてもかぐわしい香気でわたしたちを満たした。

ヨハネ これらを明らかにすることはわたしたちの力を遥かに超えている。

フィリポ これらのことすべてはわたしたちが皆、良く知っていること。

小ヤコブ 今こそ、慈しみ深い主イエスよ、

トマス あなたの力によって、わたしたちに堅信を施してください。

バルトロマイ そして、わたしたちが常に追い求める慈しみをお与えください。

シモン 皆一緒にアーメンを唱えよう、アーメン！

〔ソシテ、皆ハ大地ニ接吻スル。〕

(2)

ユダヤ人一 いいか、仲間の皆、用心しろ——俺は本気で言う、

あそこに酔っ払いの一団が座っているから。

ユダヤ人二 奴らに善行をほどこしてやるなんて嫌なことだ。

ユダヤ人三 そのとおりだ。神が奴らに恥じという恥じをすべてくれてやればいい。

ユダヤ人一 奴らの脳味噌の中で新しい酒がゆっくり回っているから、
左二二二

カケスのように騒々しく鳴きわめいているのだ。

ユダヤ人二 そのとおりだ、直ぐに眠ってしまうだろう。

奴らを川へ運んでいったら、それこそ慈善行為となるだろう——

洗礼を受けさせることになるから。

ユダヤ人一 俺が思うに、そいつは、

おとなしい遊びを見るようなものだ。

よりいい遊びになるようにしなくちゃならない、

誰にも思いつかないような遊びに。

(3)

ペテロ ああ、悲しいことに、あなたたちは自分が何をするつもりか分かっていない。

なぜ神の慈しみをこのように物笑いにするのか？

神の慈しみはあなたが考えているようなものではない。

この場所に酔っ払いなどいない。

それゆえ、咎め立てるあなたたちの罪はとても大きいが、

それが罪になるということが皆さんには気に入っているようだ。

たった今、人間の慰めになった、

重要な意味をはらんだヨエルの預言が成就されたのだから。

預言の中でヨエルは、

あなたたちは既に目に見えているが、

分かり易い言葉で、

はっきりと明かししている。

さあ、神に感謝を捧げましょう！

アーメン。

「ここで、「聖霊降臨の日」が終わり、「聖母の被昇天」が始まる。」

第四十一番山車題目 聖母の被昇天（前半）

〔我がオコナイニヨリテ、父ナル神ハソノ母ヲ支エル。〕

二二四

（1）

律法学者 諸侯におかれましては、お聞きになりたいとのこと、

神の愛に恵まれた母マリアの被昇天について。

それについては福音を記した聖ヨハネが書き、教えた事を学んでおりますが、紛れもなく、『聖書外典』と呼ばれている書の中に、

マリアは十四歳の時、そのきれいな体液の中にキリストを懐妊し、

あえて言明しておきますが、十五歳で産んだ、とあり、

三十三年の間、そのかわいい息子と一緒に暮らし、

息子が死んだ後、十二年間は地上に留まった、とあります。

さて、これらの年数を手抜きなく計算してみますと、

この乙女マリアの年齢は、言ってみれば――

10

5

天軍九隊より上部に昇天した時、

聖書が詳細に述べているように、六十歳でした。

『聖人伝』がこの事を正当化しています。

(2)

マリアはシオンの山際のユダヤの国に住んでおり、

結婚後に孕んだ息子が昇天した後に、

キリストが留まったすべての聖なる場所に、

神を崇めながら、信心深く、訪れました。

最初は、キリストが洗礼を受けたヨルダンと呼ばれる川へゆきました。

次に、キリストが断食をし、悪辣に誘惑する者に連れて行かれた場所へ、

そして、キリストが埋められ、魂の勝利のうちに独りで立ち上がった場所へ、

最後に、マリアはキリストが、人間の姿をした神として天に昇られた場所を訪れました。

このように、マリアは忙しくしていた、と物の本には書いてあります――

マリアは寺院で繁く祈りを捧げていた、と。

これからも言わなくてはなりません、今こそマリアは祝福されるはず、と。

この舞台で役者たちがマリアが天に上げられる様子を演じるはずです。

よく耳を澄ましてください、さあ、話を止めて、舞台に注目してください。

(1)

口上役 悪魔の名にかけて言う、さあ、おしゃべりを止めろ！

左二四

けがらわしい雌犬どもは見るな！

さあ、舞台の上をご覧ください、りっぱな諸侯が一堂に揃っています。

この国の高位高官の方々、高位の方々、

それに、その高い知恵によって、その地位に間もなく到達されるであろう方々が、

5

いかにユダヤすべてを最善に統治するのをご覧ください。

それに、われらの掟を侮辱したあの大胆な説教者たちは、

逃げ出そうとする前に、本人たちが言うとおりに殺されることになるのです。

だから、静かにしてください！

そう、舞台にじっと耳を傾けてください。

10

なぜなら、ガキが少しでもわめいたら、俺がそいつを殺してやる、

このごつごつした棍棒で、ろくでなしだから殺してやる。

さあ、聞いてください、りっぱな方々がすべて膝をついているのですよ！

(2)

ユダヤ教主 さても、高位聖職者の皆さん、掟を守る聖職者一人として、

以下の用件についてのご回答をこの場で直ぐに要求する――

15

ご存知の限りでいいが、われらの中に背教者が一人でもいるのかどうか、あるいは、派手な雄弁さだけで、人々を背教させるような奴がいるかどうかを。もしもいるのなら、そういう奴らを恐怖に陥れなくてはならない。

われらの信仰を不正に偽るのだから、われらの敵であると証明してやる。

そういう輩は、蚊が襲って来るまで、腰帯の所で縛り上げ、

悪魔が奴らに苦しみの声を上げさせるまで、仲間に吊るし上げさせよう。

われらはゆるめることはできない、

そんなごろつきどもに対応する過酷さ加減を――

われらの掟とわれらの聖書を拒み通すような奴らだから。

濃紫色の絢爛たる衣裳を着たお歴々の方々、

さあ、われらの掟を救うためのご意見をお聞かせください。

(3)

司教一 猊下、われらはすでに、自らをわれらユダヤ人の王であると名乗り、

神の子であり、すべての者の上にいる主であると言った男を殺しているのです。

また、死んで以来、どんなふうであれ、奴が立ち上がったという話を聞いていない。

それに、いいですか、生きていたのなら、われらは奴の奴隷になっただけです。30

主教 それゆえ、われらは知恵を絞って奴の終わりを短くしたのだ。

高く登ろうとする者はぶざまに落っこちる、という譬のとおりだ。

司教二 そのとおりでありますが、最初に一つの事について警告しておきます。

マリアと人が呼んでいる奴の女が生きています。

多くの人たちが何から何まで世話を見ています。

それゆえ、罪として責め立てるためにも、そんなことを続けさせないことです。

もしも奴らに女の面倒をこのまま見るにまかせると、

女がわれらの掟を破壊し

われらに多大の恥じをかかせることになりました。

(4)

主教 ああ、あなた、それは大胆な言いようだ——娘っこ一人を恐れているのか！

その女がわれわれに再び何ができるかと信じているのか？

司教三 猥下、国の中には他にもいるのです、

われらが殺した奴が生きている、と言い張り、伝道して回る者たちが。

もしもこのまま奴らの勝手が許されるなら、望ましくない状況が生まれるはずです。

なぜなら、奴らの心地好い言葉はわれらの掟の名譽を傷つけるからです。

それゆえ、今この満場の席上で、考え出しましょう、

奴らを圧倒するには何をするのが一番良いのかを。

もし奴らが大きな力を持つようになったら、われらは万事休すです。

主教 それなら、どうするか——お前たちが望む所をわしに言え。

司教一 奴らの力が壊滅するまで牢獄へ入れておきましょう。

司教二 一撃で殺してしまうのがもっといい。

司教三 いいや、吊して苦しませるのが一番だ。

(5)

主教 いいや、そのようなものでなく、もっといい忠言を！

何が起こるのかを目に浮かべよ。

もし奴らを殺せば、平民たちを立ち上がらせることになるだろう。

そんなことを待つのだったら、むしろ、奴らを悪魔に殺させろ！

だが、あのあばずれがマリアと呼ばれていようとなかろうと、

女の体と皮膚を直ぐに灰になるように焼き、

女にしてやれるすべての屈辱を与えろ。

その後は、あちこちをあのように広々と歩き回っている弟子どもを殺し、

奴らの体を八つ裂きにしてくれよう。

今まで言われた中では、この遣り方が一番だと思わないか？

司教一 猊下、あなたの知恵にわれらは喜んでおります。

主教　ならば、お前たち騎士団の皆には、用意を整えるように命じる。

それにお前たち拷問係りも、その時に備えよ。

マリアが死んだら、

そして、それほど早く死なないのなら、悪魔よ、女の頭をかち割ってくれ！

〔ココデ、寺院ノ中デまりあガ祈ッテイル場面ニ移ル。〕

(1)

マリア　おお、あなたの尊敬すべき神性における高き知恵よ、

あなたの限らない慈しみによって、わたしたちを救われました――

もっとも卑しいこの身からあなたが人に生まれることを望まれたという慈しみ。

しかるべき従順さを込めて、あなたに感謝を捧げます。

そして、栄光あふれる主よ、息子よ、もしも尊いあなたの気に入るのであれば、

わたしが望んでいることで不快にならないでください――

今や三位一体に合体されたあなたのみ前にゆきたいのです。

わたしの心と魂のすべてをつくし、自然の理に駆り立てられて、

あなたが支配しておられるところへゆきたいのです。

なぜなら、すべての被創造物はあなたを信頼しているからです。

そして、あなたの血縁の母として、わたしにはもっと他の感情があります――
 あなたは神として生まれ、わたしの体から人間として生まれたのです。
 神の最初の創造物であつたあなたの元へゆくことを強く望みます。

(2)

全知全能の神 優しい母の祈りがわたしの所まで昇って来ている。

母の聖なる心と母の愛がすべてわたしのの上にある。
 それゆえ、天使よ、母の所へこれから降りて行き、
 わたしの限りのない世界へ来るように伝えなさい。

(3)

わたしの満ち溢れる憐れみを母に差し伸べ、

地上の惑いから、天の喜びへ受け入れよう。

そして、その印として、この棕櫚を与えなさい。

どのような逆境も恐れないようにと伝えなさい。

天使一 あなたの力によって、乙女であるあなたの母の所へ降りて行きます。

天使二 その言つてに、天の仲間よ、喜べ！

〔ココデ、琴ガ搔キ鳴ラサレルウチニ天使ハ地上ニ降り、まりあニ言ウ。〕

(4)

天使一 おめでとう、優れた皇女、いとも清いマリア！

おめでとう、輝く星！ 太陽もそれほどには輝いていない。

おめでとう、憐れみの母、いとも質素な乙女！

神がヤコブに与えた祝福は、今や、あなたの上に降り立つ。

マリア これはようこそ、輝く鳥よ！ わたしは神の天使に仕えます。

全能の神の御遣いであるあなたを心からお迎えいたします。

さあ、お願いです、わたしにおっしゃってください、あなたの高いお育ちを。

あなたに権限として与えられているお名前はなんですか？

天使 婦人よ、何の必要があってわたしの名を求めるのですか？

マリア そのとおりなのです、親切な天使さま、ぜひともお聞かせください。

天使 おっしゃるとおり、わたしの名前は偉大ですばらしいものです。

あなたの息子である高い神は喜悦の中でああなたをお待ちです。

三日の内に、あなたは必ず息を引き取り、

あなたの息子であるわたしの神のみ前に昇って行くのです。

マリア 今言えるのは、「神よ、憐れみと感謝を！」です。

優しい天使さま、このお報せに感謝します。

天使 婦人よ、神の力の現われとして、これを今ここに与えます、

これは棕櫚の枝です。天国から持ってきたものです――

あなたが身ごもる以前に、神はあなたに運ばれるように命じておられました。

マリヤ その主にたいし、とこしえに感謝を捧げます。

(5)

天使 あなたの従順さと、あなたの腰の低さと、あなたの高貴なふるまいは

三位一体の神の目に、もっとも望ましいものと映ります。

女王にふさわしい天上のあなたの席の用意は整っています。

さあ、死ぬ用意をしてください――あなたの息子がそうにお望みです。

マリヤ 目の前におられるわたしの神の掟に従います。

左二六(115)

でも、力のあるあの主の一つだけお願いがあります――

わたしの兄弟の使徒たちがわたしの前に現れ、わたしに会い、

わたしもあの方たちに会えるように、わたしがあの光りの中へ進み入る前に。

でも、みんなあちこちにばらばらに散っているので、そうならないと思われませんが。

天使 ああ、婦人よ、神にとって不可能なことはないと信じているでしょう？

(6)

なぜなら、ユダヤからバビロニアへ食料と一緒にアバククを送った神は、

ライオンの穴の中に放り込まれた預言者ダニエルにしたのと同じように、

まったく同じ力を遣われて、神は使徒たちをマリアに会わせることができます。
いいですか、頭の毛一本の力によってです——神は力あふれておられた！

(7)

それゆえ、婦人よ、あなたの清い心を当惑させないでください。

マリア 本質的に栄光が溢れる天使様、もうそのようなことはいたしません。

(8)

加えて、わたしの息子に頼みます、悪魔を目にすることのないように、と。

この言葉が途切れた時、わたしはこの世から移ります。

悪魔の恐ろしい顔は直ぐそばで見たら怖いでしょうね、

恐ろしい悪魔が現われることが一番怖いのです。

天使 皇后よ、悪魔がそんなに直ぐそばにいと恐れる必要などありません、

あなたの体が結んだ実によって、悪魔の暴力は征服されたのだから。

あの恐ろしい蛇はあなたの血肉を継ぐ者に決して襲いかかることはありません、

たとえ悪魔があなたが咲かせた花にあらがおうとしても。

それゆえ、悪魔にどんな企ても立てさせてはなりません。

今はそれ以外のことを当然のこととして望まれることです。

マリア わたしの神の力が、ただただ称えられますように！

天使 それではこれで、さようなら、人の目にとてもすばらしく見える方、この棕櫚を持って、再び神の所へ昇ります。「ココデ、天使ハ天ニ昇ル。」

(9)

マリア 今こそ、主よ、あなたの優しい清い名前を、身を低くして称えます。

お名前は天と地がいつも詩篇で歌っています――

わたしが憐れみを慕い求めることがあなたの喜ばせ、

わたしの純真な魂があなたの名前を確かに大きなものにいたします。

さあ、清い乙女たちと――わたしの見積もりでは、神の僕たちも、

天使が確証したように、わたしは必ずこの世から移ることになります。

それゆえ、わたしの質素な住まいへ赴いて、このことをあなたたちに告げます。

そこへ行こうと思いますので、あなたたちの返事がほしい。

そして、心を尽くしてわたしのために夜も昼も目を覚まして祈ってください。 二二七

(10)

乙女一 恵まれた婦人よ、わたしたちはすべての力を込めて祈ります、

あなたがわたしたちを救う優しい息子の元へ、わたしたちから離れて行かれるように、

あなたの光りの中で輝いておられる、わたしたちの唯一の慰めである方の元へ！

あなたがいなくなるのは痛ましく、わたしを嘆かせます。

乙女二 すべての徳において飾られた、とてもすばらしい王女さま、

婦人よ、天と地のすべてはあなたを尊敬しています。

与えられた権利と義務として、わたしたちは寝ずの番をしましょう、

あの高い塔へ進み入られる時まで。

マリア そのようにわたしを崇めてくださいますので、

神があなたがたに感謝してくださるように、わたしも同じようにあなた方に感謝を。

さあ、準備を整えて、この旅にでかける支度をしましょう。

神がわたしの兄弟たちをわたしの傍近くにいさせてくれますように！

そうなれば、わたしたちの救い主イエスを生んだわたしの体を墓まで運んでくれます。

〔ココデ直グニ、福音書記者ノ聖よはねがまりあノ家ノ戸口ニ現ワレル。〕

(11)

ヨハネ ああ、不思議をなされる神よ、あなたの力は偉大だ。

み心のままに、たくさんの不思議なことをなさる。

遠い国のエフェソスでわたしは説教をしておりました。

すると、この山々まで白い雲によって運ばれ、喜びに我を忘れました。

この目で見てしかと分かりました——ここにキリストの母上が留まられているのです。

あの乙女の元に、さる不思議な知らせが届こうとしています。

とても徳において輝かしいその婦人の所へ行つて挨拶をし、
どのような理由でわたしが急に訪問したのかをお教えしましょう。

〔ココデ、よはねガ戸ヲ叩キ、家ニ入ルト、まりあガ話シカケル。〕

めでたし、母マリア、永遠の乙女！

(12)

マリア ああ、童貞ヨハネ、わたしの心すべてを特別に込めて歓迎します！

あなたがそこにいるのが嬉しくて、わたしは気が遠くなり始めました。

ヨハネよ、あのことを思い出しませんか——わたしの永遠の子が、
十字架に吊るされた時に、わたしたちに言ったことを？

「見なさい、婦人よ、ここにいるのはあなたの息子だ、そのように呼ぶように」と命じ
られた。

そして、お互いが快い存在となるように、わたしを母と呼ぶように、と。

あの子は地上でのこの体の庇護をあなたに託したのです——

一人の童貞からもう一人の童貞へ託されたのは、ふさわしいことであると思われま

す。しかも今や、あの慈しみ深い主はあなたをこんなにも早く寄越してくれた！ 左二一七

(13)

ヨハネ さあ、善良な美しい婦人よ、今しなくてはならないことは何ですか？

なぜわたしがここに遣わされたのかを言ってください。

マリア 優しい息子のヨハネ、直ぐにそうしましょう。

われらが主である神は光り輝く天使をわたしに遣わされ、

この地上から三が一つなっている所へ移るように、と言われました。

その折に、あなたにお会いしたい、と天使にお願いしました。

ヨハネ ああ、聖母さま、わたしたちの所から行ってしまおうのですね！

わたしの兄弟たちはこの報せにひどく嘆き悲しむことでしょう――

あなたがこの地上からいなくなるという報せに。

主よ、あなたはいつもわたしたちに多くの苦しみをお与えになられます――

今回は、われらの喜びであるあなたの母上を取り上げてしまうおつもりだ！

われらの師で、われらの慰めであるあなたが、われらから遠ざかり、天に昇られました。

その時には、われらの慰めのすべては、われらから取り除かれてしまった。

しかし、母よ、その時、天使はなにかをもっと語られたのですか？

(14)

マリア 天使は天にいるわたしの息子からこの棕櫚をわたしに持ってきてくれました。

天使が命じたとおりにわたしが求めた棕櫚です――

わたしの棺の前に飾られてあなた方によって運ばれるはずのもの。

あなた方は真心こめ、悲しく、わたしへの挽歌を歌う――

ヨハネよ、あれこれ多くのことをユダヤ人が口にするのを聞いているからです。

ヨハネ ああ、りっぱな婦人よ、好きなお話をしてください。

(15)

マリヤ 秘密の内にユダヤ人たちはたくさんの知能を集めて事を謀ったのです、

わたしの魂が神の望まれる場所へ移される時、

わたしの体を焼くということ、つまり、恥ずかしい形で殺す、ということ。

なぜなら、イエスはわたしから生まれ、ユダヤ人に拳固で殺されました。

だから、それゆえに、ヨハネ、あなたにお願いします――この体そのままを

埋めてくれるように助けてください――あなたを信頼しているのですから。

ヨハネ 婦人よ、怖がらないでください、わたしが一緒にしますから。

ああ、この場に、兄弟たちがいてくれて、このことを知ってくれたら！

〔ココデ直グニ、ソレゾレハ不思議ガリナガラ、使徒全員ガ戸口ノ前ニ集マル。〕

(16)

ペテロ ああ、聖なる兄弟たち、神の恵みがあつたので、今ここで皆に会えた！

ああ、主よ、神よ、このように突然に集まる意味は何ですか？

さあ、優しい兄弟のパウロ、どうぞこはあなたがし切ってください。

われらすべてに代わって神に祈ってください、結びつきが深まるように。

パウロ 良い兄弟のペテロ、ここではどのように祈ればいいのでしょうか！ 一二八(210)

わたしはこの集まりの中で一番小さい者で、もっともふさわしくない者なのに。

あなたがたに本当のことを言います、わたしは使徒と呼ばれるのにふさわしくない。なぜなら、聖なる教会を、まるで気違いのように迫害したのだから。

しかし、それにもかかわらず、見てくれどおり、今ここでこうしていられるのも

神の恵みだ。

ペテロ ああ、パウロ、そのように腰が低いのはすばらしい——それでこそ、

いつまでもわれらと兄弟だ。

(17)

パウロ ペテロよ、神は天の鍵をあなたに託された。

加えて、あなたは光りの柱で、われらすべての精神的統治者だ。

この祈りをあなたがするのがもっともふさわしく、

あなたとは比べ物にならないこのわたしだが、ここでお願いをいたします。

ペテロ では、パウロ、あなたに代わって祈ることを請け負いましょう。

さて、智天使ケルビムの館の上にお座りなられる全能の神よ、

あなたの聖なる十字架を現わす印として、われらの手で十字を切ります、

あなたの憐れみがわれらの上に降るように願いながら。

そして、なぜこのようにわれらが集まったのかも、よろしければお教えください。

ヨハネ 聖なる兄弟たち、ようこそいらした——あなたがたすべてを歓迎します！

(18)

ここで皆が集まったわけをあなたがたにはっきりさせましょう。

神の母マリアに向かって天の使いが遣わされたのです。

マリアがこの惨めな世から喜びへ必ず赴くという知らせで、

死ぬ時には、われわれが一緒にいて欲しいと望んでおられるのです。

ペテロ ああ、兄弟のヨハネ、溜め息が出て、心配になります——

もしその報せの意味内容を神が喜ばないのならば。

パウロ 事実、さらに気が重くなるかもしれない——

わたしたちの母でわたしたちの慰めである方が、

わたしたちから遠く離れてしまうとは！

だが、それにもかかわらず、神のみ旨はまっとうされるはずです。

(19)

ヨハネ よく言ってくれた、パウロ、だが、次のことについては注意してくれ——

マリア様が死んでも、憂いに沈んだ言葉を誰も吐かないことだ。

なぜなら、われらがそんなことをしたと、ユダヤ人たちに直ぐに知れてしまうからです。

われらが死を恐れていることになると、われらが教えていることに反します。

なぜなら、完璧な三位一体を信じている人々すべてに語っているのは、

神を信じる者は永遠に生き、死なない、と説教しているからです。

そして、もしマリア様の死にたいして悲しみをあらわにするなら、言われましょう、

「見ろよ、あそこで説教している奴らは死ぬのが怖くてならないのだぞうだ!」と。

それゆえ、皆さん、神において喜びましょう!

左二一八

(20)

ペテロ では、聖なる兄弟ヨハネが言うとおりにしよう!

さあ、あなたにお願いする、われらの母マリアに会わせてください。

ヨハネ さあ、神の名を唱えながら、マリア様のところへみんなでゆきましょう。

この聖なる一行をご覧になって、大変にお喜びになることでしょう。

「」ここで、「聖母の被昇天(前半)」が終わり、「聖母の被昇天(後半)」へ続く。」